

HEART NET Vol.21

岩見沢市立総合病院 広報誌

2024年10月発行

ホームページ

<http://www.iwamizawa-hospital.jp>



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



[ご挨拶] 病院長/副院長/内科(呼吸器科)診療部長/医療技術部長 就任のご挨拶

[特集] 入院セットレンタルサービス・紙おむつセットサービスの導入について

[病院からのお知らせ] 骨粗鬆症検診はじめました

[クッキング] イベントメニュー／編集後記

写真: 「看護の日」イベントの様子

病院長 高橋 典彦

令和4年度にこの岩見沢市立総合病院に着任し、2年間副院長として、病院運営に携わってきました。そして、この4月に岩見沢市立総合病院長に就任した高橋典彦と申します。私は平成元年に北海道大学を卒業し、すぐに北海道大学病院第一外科に入局いたしました。以後36年間、大学病院および道内津々浦々の関連病院にて主に外科医療に従事させていただきました。ここ岩見沢に赴任する前は、北海道大学病院手術部に勤務しており手術医療に関しての縁の下の力持ちのような仕事をしていました。

ここ岩見沢市立総合病院は、岩見沢市内の一次・二次救急はもちろんのこと、南空知地区の二次救急を担う唯一の基幹病院です。よって、当院が果たすべき役割は大きく、岩見沢市にお暮らしの皆さんのみならず、南空知地区にお住いの方々に安心・安全な医療を提供し、すべての地域の医療機関と連携・協力していかなければなりません。この地域医療をしっかりと守る役割の重さについて、改めて再認識しているところです。

現在、新病院建設の話が着実に進んでおります。北海道中央労災病院との統合という課題もありますが、新型コロナウイルス後の患者動向や資材価格高騰による建設費の上昇も大きな問題となっております。今後は新病院建設のためには、基本設計を見直す必要が出てくるかもしれません。その中で新病院に求められる機能は維持した上で、より効率的で適正な施設規模となるように検討したいと考えております。地域住民の健康を守ることはもちろんのこと、病院に勤めるすべての職員が職務に愛着と誇りを持ち、その社会的使命を果たせるような新病院が出来ますように取り組んでいきたいと考えております。

職員の皆さんが、目の前で悩んでいる患者さんに全力で尽くせますように、私としては調和を大切にしながら全力でお手伝いさせていただきますので、これからもご協力よろしく願いいたします。

そして岩見沢市立総合病院を選んでいただけるように、安心・安全な医療が提供できる病院を目指して職員一丸となって努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

副院長 河合 朋昭

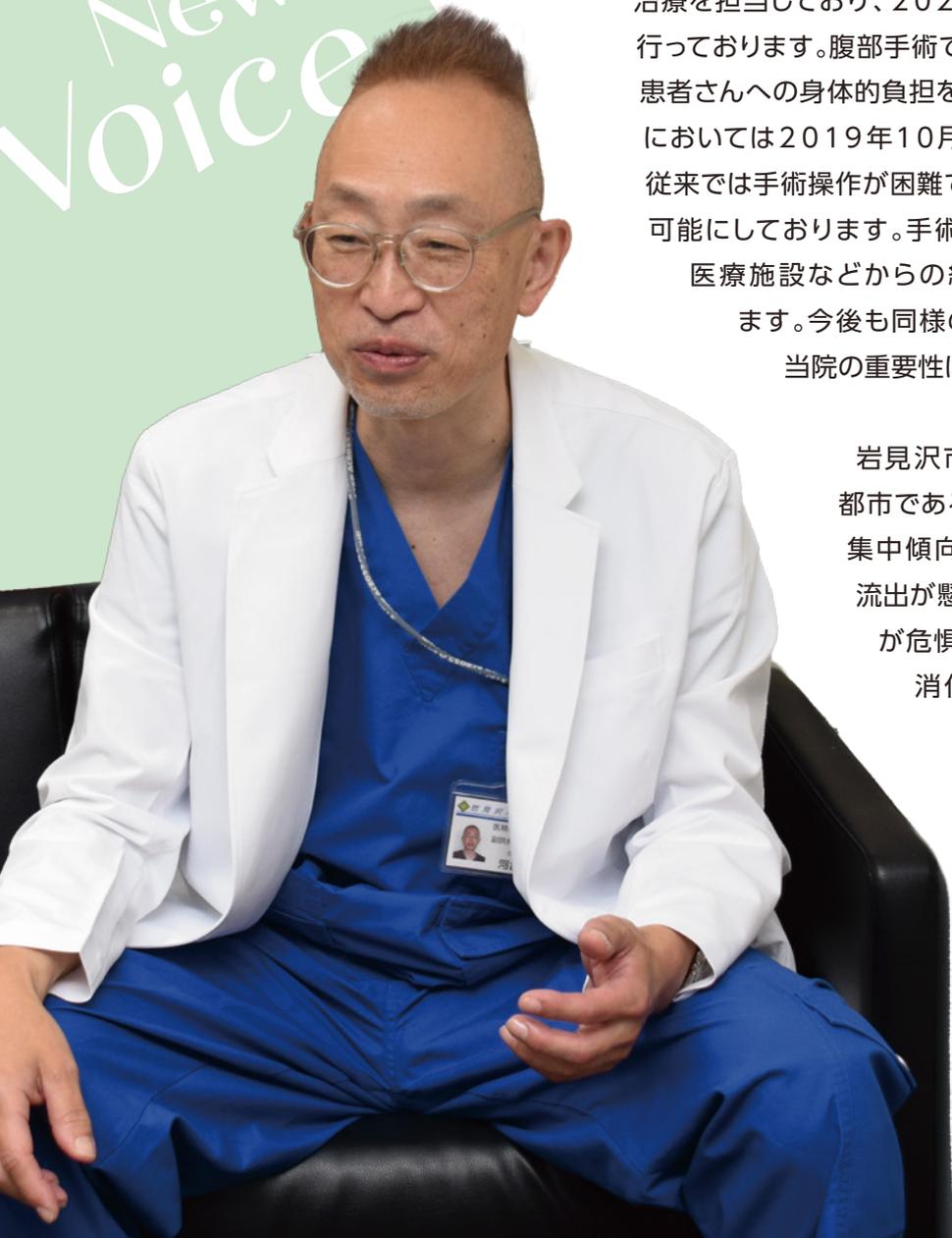
2024年4月より副院長に就任した河合朋昭と申します。

私は1994年に北海道大学医学部を卒業後、道内各地の病院で外科医として勤務してきました。2019年にそれまで勤務していた釧路労災病院より当院へ赴任して参りました。もともと岩見沢市出身で、大学卒業まで生活していた街に25年ぶりで戻ってきたこととなります。それから早5年が経過しましたが、その間に当院を取り巻く環境は徐々に変わってきました。最も大きなことは北海道中央労災病院との統合計画です。当院は人口8万人弱の岩見沢市のみならず、近隣の3市5町とともに形成された総面積約2500km²、人口約15万人の南空知地域医療圏における中核病院としての役割を担ってきました。昨今、全国的に問題となっている人口減少および少子高齢化は、岩見沢市を含む南空知地区でも急速に進んでいます。そのため、限られた医療資源を効率的に運用することが必要となっており、病院統合に向けた準備が進められています。

当科は胃癌、大腸癌、乳癌などの悪性疾患、胆石症や虫垂炎および腸閉塞症などの消化器良性疾患、鼠径ヘルニアなど、様々な疾患に対する外科的治療を担当しており、2023年度は450例あまりの全身麻酔手術を行っております。腹部手術では可能な限り鏡視下手術を選択しており、患者さんへの身体的負担を減らすよう心がけております。また、直腸癌においては2019年10月よりロボット支援下手術を導入しており、従来では手術操作が困難であった部位においても、より精緻な手術を可能にしております。手術症例の約1/3は手術に対応できない近隣医療施設などからの紹介患者に対する臨時手術が占めております。今後も同様の傾向が続くと思われ、地域医療における当院の重要性はますます大きくなっていくと考えます。

岩見沢市から40kmほどの距離に北海道最大の都市である札幌市が存在します。社会的資源の都市集中傾向が一層強まれば、医療スタッフの札幌圏流出が懸念され、ひいては地域医療サービスの低下が危惧されることとなります。当科は北海道大学消化器外科I（第一外科）の関連施設として同医局より医師が派遣されているとともに、大学病院や他の関連施設より医師を招聘して質の高い医療の提供に努めております。院内他科との連携もより一層深めながら、地域で完結できる医療の場を維持したいと考えております。

New
Voice



診療部長 高階 太一

2024年4月より内科(呼吸器科)の診療部長に就任いたしました高階太一と申します。私は札幌市出身で、2004年に北海道大学を卒業後は北海道各地の病院で研修し、2007年には一年間当院にも勤務いたしました。2010年には呼吸器内科学分野の大学院に入学し、博士課程を修了しました。その後、希望をして2016年より再び当院で勤務しております。

私は呼吸器科ですので、2020年2月からのコロナ禍における診療で苦労したことが思い起こされます。北海道中央労災病院とともに南空知圏において主に中等症～重症の患者さまの診療を担当いたしました。重症の患者さまは札幌の医療機関とも連携をして治療にあたりましたが、一時は札幌市内においても人工呼吸器やECMO(人工肺とポンプを用いた対外循環による治療)の機器も不足し、十分な治療ができない状況に陥りました。現在、新型コロナウイルス感染症は5類感染症へ移行しましたが、特にご高齢の方や基礎疾患のある方におきましては重篤化することもありますので、引き続き感染対策にはご留意頂けたら幸いです。

現在当院は北海道中央労災病院との統合及び新病院建設に向けて、協議を進めています。新病院においては今以上の呼吸器診療を皆さまにお届けしたいと考えております。当科の代表的な疾患としては肺癌、気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群などが挙げられます。肺癌治療においては現在進歩が著しく、毎年新しい薬剤や治療法が更新されているような状況ですが、当院においては最新の抗癌剤にも対応しております。北海道大学より放射線科医師が週2回診察も来て頂いており、肺癌に対する集学的治療も可能ですので、何かご不明な点がございましたらお気軽にご相談をさせて頂けたら幸いです。

また院内の緩和ケアチームの一員としても活動しています。新病院では緩和ケア病棟の開設も予定されていることから、多職種で協議しながら患者さまやそのご家族への質の高い緩和ケアを提供し、QOL(生活の質)が高まるようお手伝いをさせて頂きたいと考えています。

末筆ながら、今後の新病院建設に向けて、ハード、ソフト面ともに皆さま方に安心して医療を受けられるよう私どもも力を尽くしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願いいたします。

新任の
ご挨拶





New
Voice

医療技術部長 山口 晃

令和6年(2024年)4月より医療技術部長に就任しました山口です。

医療技術部は放射線科、臨床検査科、栄養科、臨床工学科、リハビリテーション科と視能訓練士の5つの科と1部門により構成され多岐にわたっています。専門的な資格や技術を持ったスタッフが日々業務についております。新病院の統合を控え総勢84名のスタッフが意見を出し合い市民の皆さんが快適にまた、安心して利用できるよう計画、設計に努力しています。

私は昭和61年(1986年)に岩見沢市立総合病院に診療放射線技師として採用され38年になります。当時と比べるとスタッフも倍増していますし、仕事内容も大きく変化しています。職域を超えた多職種連携、医師や看護師とのタスクシフト/シェアも行われています。

私は医療技術部のスタッフが活発に交流し意見を出し合いより良い環境を作り地域の皆様に安心、安全な医療を提供できるよう努力して参りたいと考えています。今度ともよろしく願いいたします。

入院セットレンタルサービス ・紙おむつセットサービスの導入について

当院では、令和6年3月1日より、感染予防対策、医療サービスの向上、患者さま及びご家族さまの入院に係るご負担の軽減を目的に「入院セットレンタルサービス」「紙おむつセットサービス」を導入いたしました。



※入院セットとは…入院の際に必要な病衣やタオル類、様々な日用消耗品を1日定額でご利用いただけるサービス
※紙おむつセットサービスとは…紙おむつや尿取りパッドを1日定額でご利用いただけるサービス

導入のきっかけ 患者さまやご家族さま、看護師から意見があり、入院セットの導入を決めました。

患者さま・ご家族さま

- 入院時の持ち物が多くて大変
- 日用品や紙おむつを買って持っていくのが大変
- 家族が遠方に住んでおり、頼める人がいない

看護師

- 緊急入院の場合、入院時に必要な物品が揃わない。すぐに必要な物が揃わないことで患者さまが不便な思いをする
- 病衣の胸元がはだけやすい。着心地がよく羞恥心に配慮した病衣に変更したい

導入後の評価 入院セットサービスを導入し、6か月が経過しました。8割以上の方が利用され、患者さま・ご家族さま、看護師から好評をいただいています。

患者さま・ご家族さま

- 入院時に物を揃える必要がなくて、便利
- いつもきれいなタオルを使うことが出来て、衛生的
- 洗濯物が少なくなって、楽になった
- 病衣は柔らかな素材で着心地がいい

看護師

- 患者さまに必要な物が揃うので、患者さまに不自由な思いをさせることがなくなった
- リハビリの靴があるので、すぐにリハビリを開始できるようになった
- 病衣がニット素材なので皮膚の弱い方やむくんでいる方にも安心して使用できる
- 病衣は胸元を気にしなくてよかった

今後も、患者さま・ご家族さまが安心して入院生活を送れるようにしたいと思います。



完全予約制

月曜日・木曜日

午前9時・午前10時

3,960^{税込}円 (保険適用外)



ご案内は
こちら

骨粗鬆症検診 はじめました

❓ 骨粗鬆症とは

骨の量(骨密度)が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。

日本には約1000万人以上の患者さんがいるといわれており、高齢化に伴って増加傾向にあります。骨粗鬆症は無症状なことが多く、目に見える変化もないため、骨折後の検査や健康診断などで判明した時にはかなり進行していることも少なくありません。

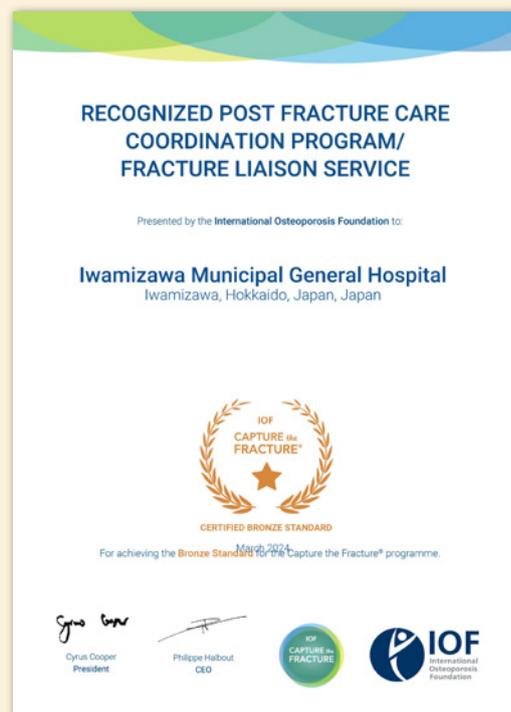
国際骨粗鬆症財団から銅賞認定

(International Osteoporosis Foundation)

国際骨粗鬆症財団(IOF)は、骨粗鬆症と骨折予防に関する国際的な啓発、研究、教育及び支援を行う非営利団体です。IOFは、骨粗鬆症に関する情報の提供、専門家の教育、研究プロジェクトの支援、世界中で啓発キャンペーンの実施など、多岐に亘る活動を通じて、骨の健康に関する認識を高め予防措置を推進しています。

当院では、2022年に骨折リエゾンサービス(FLS)チームが発足し、多職種による骨粗鬆症の治療・啓発活動を行っております。

このたび、この活動がIOF「脆弱性骨折の二次骨折予防の取り組みに対する認定制度」にて銅賞の評価を受けました。北海道では6番目の認定となり、今後も引き続き活動してまいります。



行事で提供された
メニューをご紹介します!

Event Menu

医療技術部 栄養科

こどもの日 メニュー

- ◆ピラフ
- ◆春キャベツのサラダ
- ◆ビーフシチュー
- ◆苺のゼババロア

お食事
の
ポイント

子供が喜びそうなお肉料理や、
この時期が旬の野菜を取り入れたメニュー

毎年5月5日は

端午の節句と呼ばれ、
季節の節目となる日を表します。
また、国民の祝日に関する
法律に定められた
「こどもの人格を重んじ、
こどもの幸福をはかるともに、
母に感謝する日」とし
「こどもの日」
でもあります。

ピラフ..... ご自宅でも炊飯器に具材と調味料を入れてただけ簡単
においしくつくることができます

ビーフシチュー..... お肉を柔らかくするため長時間煮込み、お年寄りの方にも
食べやすい工夫をしました

春野菜のサラダ

春キャベツは甘みが強く、葉も柔らかく生で食べやすい特徴があります。栄養面ではビタミンCは冬キャベツの1.3倍含まれていると言われ、その他にビタミンU等の栄養素が含まれています。ビタミンUは(キャベツから発見されキャベジンとよばれます)胃酸の分泌を抑え胃粘膜を修復する働きを持ちます。

1人分の栄養量

● エネルギー 735kcal
● 炭水化物 95.5g

● タンパク質 21.1g
● 塩分 3g

● 脂質 28g

はあとねっとVol.21をお届けします。

編集後記

暑い夏がやってきました。皆さまいかがお過ごしでしょうか？
地域でイベントなどの開催により、外出する機会も多いのではいでしょうか？
当院からも地域で開催される各種イベントに、救護班として職員を派遣することが多くなっています。残り少ない北海道の夏を地域の皆さまと交流しながら、一緒に盛り上げていくことに幸せを感じる今日この頃です。今後も「はあとねっと」を通じて、地域の皆さまに新しい取り組みや診療に関する情報をお届けしていきたいと思っております。

サービス向上委員会

はあとねっと HEART NET
Vol.21

2024年10月発行 岩見沢市立総合病院 サービス向上委員会
サービス向上委員会 事務局 地域医療連携室
製作:Ka2 Design